



●東京海上研究所オンラインセミナー

異常気象研究の最前線

～「変わるリスク」に
企業はどう備えればいいのか～

2026 **11/13** 金

17:30 → 19:00

無料

オンライン開催 Zoomウェビナー

●申込方法

<https://forms.cloud.microsoft/r/jhZGHb7Zha>

または、QRコードからお申し込みください。

申込締切:11月6日(金)

※ウェビナー接続先は、開催の一週間前を目途に、お申し込みいただきました皆様にお知らせします。

※定員は設けませんが、申込多数の場合には締切前に受付を終了させていただく場合があります。



異常気象研究の最前線 ～「変わるリスク」に企業はどう備えればよいのか～

近年、記録的な猛暑や豪雨などの異常気象が世界各地で相次ぎ、私たちの生活や企業活動にも大きな影響を及ぼしています。地球温暖化の進行に伴い、こうした極端な現象の発生頻度や強度はさらに増大すると予測されており、過去の経験や統計を前提としてきた従来のリスク評価や防災・減災のあり方も、見直しを迫られています。

一方、気候科学も大きく進展しています。近年注目されている「イベント・アトリビューション研究」では、実際に発生した猛暑や豪雨などについて、「地球温暖化によってどの程度発生しやすくなったのか」を科学的・定量的に評価することが可能になってきました。異常気象を単なる「想定外」として捉えるのではなく、地球温暖化によって変わりゆくリスクとして捉えることができるようになってきました。

では、こうした科学の進展を、企業はどのように将来への備えにつなげればよいのでしょうか。本セミナーでは、異常気象研究の第一人者をお招きし、近年の異常気象と地球温暖化との関係や、

イベント・アトリビューション研究をはじめとする最新の科学的知見について解説いただきます。さらに、そこで得られた知見を企業や社会の意思決定にどのように活かせるのか、防災・減災、事業継続、投資判断などの観点から、これからの企業に求められる備えについて考えます。

「これまで大丈夫だった」は、これからも通用するのか。変わりゆく異常気象リスクを正しく捉え、企業が次の一手を考えるためのヒントを提供します。



● プログラム ※途中入室・途中退室可能です。 ※プログラムや演題は予告なく変更になる場合があります。

講演
1

近年の異常気象と気候変動 —イベント・アトリビューション研究の最前線



今田 由紀子氏

東京大学 大気海洋研究所 気候システム研究系 准教授。理学博士。専門は気候力学。東京大学理学部卒、同大学大学院理学系研究科 博士課程修了、東京工業大学大学院情報理工学研究科 産学官連携研究員、気象庁気象研究所気候・環境研究部主任研究官などを経て、2023年4月より現職。気候モデルシミュレーションを用いて気候変動や異常気象のメカニズム研究を行っているほか、数か月から数年先の気候予測にも取り組んでいる。著書に「異常気象の科学」(ブルーバックス)。2026年に、第一線で活躍する女性科学者を表彰する猿橋賞(第46回)を受賞。

講演
2

変わる異常気象と水リスクにどう向き合うか —開示制度と経営判断のあいだで



小川田 大吉氏

日本工営株式会社 中央研究所 先端研究センター センター長。早稲田大学大学院工学系研究科 修士課程修了。副センター長などを経て2025年7月より現職。現職では、気候変動に伴う極端気象の変化評価や、水資源リスク評価、生成AIの活用、Nature based solutions、レジリエンス向上に関する研究開発を統括。また、産学官連携によるウォーターポジティブに関する研究プロジェクトを主導するなど、研究成果の社会実装に豊富な知見を有している。

